

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No.

47

2014.3

特集

新しく生まれ変わった図書館情報ネットワークシステム

新しくなった館内OPAC
(資料検索端末)を
利用している様子。



これまではキーボード検索、タッチパネル検索はそれぞれ別々の端末でご利用いただいていたのですが、今回のシステム更新により、同じ端末でできるようになりました。また、多機能検索の導入により、より詳細な検索ができるようになりました。

図書館とは、切っても切れない縁がある。苦手なところも、ある。図書館の本は万人の物であるから、他人の痕跡が著しく残っている物も少なくない。折り目やシワ程度ならまだしも、謎のシミや蛍光ペンの跡ともなると、とても切なくなる。

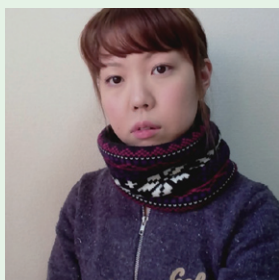
が、素晴らしい点も勿論ある。高額、絶版、あるいは長編シリーズ作品などは、図書館を利用するに限る。最近では本だけでなく、DVDやブルーレイ、CDなども豊富に取り揃えている図書館もあるから、もはや総合文化遍満所とも言おうか。

自分のような常に自宅の本棚が満杯な人間ともなると、購入に至るのは厳選した書物だけとなる。書店で立ち読みするだけで決断するのは厳しい……となると、やはり頼りになるのは図書館である。ともすれば何度も借りて、それでも足りないと感じたとき購入すれば良いのだ。図書館は、脳味噌が欲張りな人間の救済所なのである。

小学三年の頃に江戸川乱歩『夜光人間』を借りて以来、小説に限らず詩集や図鑑など実に多くの本に触れさせて貰った図書館。棚に拙著が並んでいるのを見つけたときは、不思議な気持ちになった。まさか、こうやって図書館に縁が出来るとは思わなかったからだ。

今の自分にとって図書館は、資料調達の間であると同時に、自著を万人の目に届けてくれる欠かせない存在となっている。

余談だが、図書館との縁が深いと感じるのは、図書館司書として勤めている人間が、自分の夫である、ということもある。



『縁ある、ところ』

隼見果奈